

線状降水帯予測精度向上ワーキンググループ第 4 回会合 議事概要

1. 開催日時

令和 4 年 5 月 31 日（火）10 時 00 分～12 時 00 分

2. 開催場所

気象庁 7 階会議室 1

※Microsoft Teams による web 会議を併用

3. 出席者

別紙 1 のとおり

4. 議題及び検討結果の概要

下記の議題について検討を行った。

○線状降水帯の予測精度向上に向けた取組の進捗状況について

- 半日前からの線状降水帯による大雨の可能性の予測が開始されるが、今後、ますます予測精度向上への期待が高まってくると思われる。国民に情報を提供するにあたり、情報の位置づけ、情報の精度をきちんと解説する必要がある。
- 予測精度向上の取組を着実に進めるためには、学官連携での取組をさらに強化するなど、オールジャパンで取組が着実に進められることを期待する。技術的な課題に対しては、私たち研究者からの助言も可能と考えるところ、取組の振り返りや技術的な課題の抽出も進めていただきたい。

○線状降水帯の予測精度向上に向けた学官連携の方策について

- 集中観測について、官学連携で行うのは大変意義がある。今後、国際的な共同観測と連携することや、集中観測の中で地上での水文観測を加えることも有効である。
- 集中観測データを集約して共有する取組は非常に重要である。線状降水帯の研究に関心のある研究者が迅速に観測データを広く利用できるよう、データポリシーを整理し、データ公開の取り組みを加速する必要がある。過去事例の解析のため、集中観測で得られる観測データだけでなく、気象庁の過去データも共有すると有効である。

- 開発のプロセスには、主に現状把握（予測精度、課題）、改善、評価の3段階がある。現状把握の部分では気象庁が貢献し、改善の検討の部分では研究者が貢献し、最後に両者が協力して統計的に評価することでそれらを結び付けるというように、評価までを見据えて一緒に取り組むと良い。
- 数値予報資料共有 Web について、降水だけでなく各種指標なども閲覧できると速やかな要因分析が可能となる。また、数値予報の結果のデータを大学等の研究者に提供してもらえると、より詳細に解析できるようになる。

以上

線状降水帯予測精度向上ワーキンググループ第4回会合 出席者

線状降水帯予測精度向上ワーキンググループ 委員（外部有識者）

- | | | | |
|------|-------|----------------|-------|
| ○ 佐藤 | まさき | 東京大学大気海洋研究所 | 教授 |
| | 正樹 | | |
| 伊藤 | こうすけ | 琉球大学理学部物質地球科学科 | 准教授 |
| | 耕介 | | |
| 伊藤 | じゅんし | 東北大学理学研究科 | 准教授 |
| | 純 至 | | |
| 川村 | りゅういち | 九州大学理学研究院 | 教授 |
| | 隆 一 | | |
| 清水 | しんご | 防災科学技術研究所 | 主任研究員 |
| | 慎吾 | | |
| 高数 | ゆかり | 東京大学大気海洋研究所 | 教授 |
| | 縁 | | |
| 竹見 | てつや | 京都大学防災研究所 | 教授 |
| | 哲也 | | |
| 坪木 | かずひさ | 名古屋大学宇宙地球環境研究所 | 教授 |
| | 和久 | | |
| 芳村 | けい | 東京大学生産技術研究所 | 教授 |
| | 圭 | | |

(○：主査、敬称略、主査以外は五十音順)

気象庁出席者

- | | | |
|-----|-------|--------------|
| 安田 | たまき | 総務部参事官（技術） |
| | 珠幾 | |
| 石田 | じゅんいち | 情報基盤部数値予報課長 |
| | 純 一 | |
| 長谷川 | まさき | 情報基盤部気象衛星課長 |
| | 昌樹 | |
| 黒良 | りゅうた | 大気海洋部予報課長 |
| | 龍 太 | |
| 竹川 | もとあき | 大気海洋部気候情報課長 |
| | 元章 | |
| 永戸 | ひさき | 気象研究所研究連携戦略官 |
| | 久喜 | |